

宮城

MIYAGI

大震災・五年前のあの日、あの時。

愛子幼稚園長 庄子むつ子

未曾有の大震災発生からまもなく五年を迎えます。忘れもしない2011年3月11日14時46分。幼稚園内はいつものように子どもたちの降園時間の真っ最中で、スクールバス3台も運行中でした。園内には、最終のバスを待つ子どもたちと、6時30分までの預かり保育を利用している子供たちが合わせて60数名残っていました。突然の大きな揺れに驚く子どもたちでしたが、泣き騒ぐ子どもは一人もなく、繰り返し避難訓練で身につけていた「地震の時は、素早く頭を隠して体を丸めるダンゴ虫のポーズをとる」体制を瞬時に実践した子どもたちの姿には職員も驚くと同時に、日ごろの訓練の積み重ねの大切さを改めて認識させられました。

強い揺れがおさまり、園に戻って来たスクールバスを園庭の中央に止め、子どもたちをバスの中に避難させました。停電になり、暖房器具も使えない園内の状況でしたが、バスの中はヒーターで暖まり、雪が降ってきたこの日の天候や気温からすると、正に快適そのものの空間となりました。幸いにも一斉メール配信を使用することができた為、保護者の方々には子どもたちの安否を伝えることができたことで、迎えに来るまでの間はおやつを食べたり、歌をうたったり、絵本の読み聞かせ等を先生たちが交替で担当し、不安な気持ちを少しでも取り除いてあげるように努めました。気持ちよく寝入ってしまう子どもも出始めた頃、雪の中を市内の中心部から愛子まで歩いて来た保護者が幼稚園に辿り着き、我が子を抱きしめて涙している姿は、今でも脳裏に焼きついて離

れません。最後の子どもを返した頃には、時計は9時半をまわっていましたが、全員の子もたちを無事に保護者の手元にお返しをすることができた安堵感は何にもものにも代え難いものでした。

幸いにして、園舎内外に大きな被害はなく翌日からは、全職員が一丸となり全在園児と新年度から入園予定の子どもたちの安否確認が最優先の仕事でした。会議室のテーブルいっぱい地域の地図を広げ、子どもたち一人一人の住まいにマーキング作業をした後に、ブロック毎に分かれて雪の中をフットワークよろしく数日かけて全家庭の安否確認と年度末や新年度の予定表の手渡しやポストインを終えることができました。この頃になると保護者からの安否情報や職員を気遣うメールが幼稚園のパソコンにも次々と入ってくるようになり、最終的に全員の無事が確認できた時の喜びは例えようがありませんでした。

その一方で、時間の経過と共に耳を塞ぎたくなるような情報が溢れ、スクールバスに乗ったまま幼い命を落としてしまった沿岸部の幼稚園の報道には、同じように子どもたちの命を預かる者としては他人事とは思えず、胸が張り裂けそうな思いでした。

震災から5年が経過し、園庭を元気に駆け廻って遊ぶ子どもたちの姿を目にするにつけて、保育活動を進めることができることへの感謝と、命の尊さを伝える大切さを忘れることなく継続していく覚悟でいます。

愛子幼稚園では今年で5回目となる「3.11おはなしの会」が巡ってきます。



身を守るときの「だんごむしのポーズ」をする様子



避難訓練（地震）で机の下に隠れる様子



震災後の園の放射線量を計測する様子